

第 10 回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザーボード 会議議事録

開催日時：令和 6 年 7 月 12 日（金）15 時 00 分～16 時 45 分

会 場：湖西市役所 市長公室

テ ー マ：財政学からみた湖西市の財政

発言者	発言内容
土居委員	<ul style="list-style-type: none"> ・湖西市は都道府県や政令市の平均を上回るほど財政力指数が高い。必要とされている需要額を収入が上回っている状態であり、このような自治体は多くない。国からの地方自治体への補填である普通交付税をもらっていない年もある。国からの交付金に依存せず、独自にやっている点は評価できる。 ・湖西市は、固定資産税が税収の半分を占めており、非常に安定している。法人市民税は景気の影響を受けて増減しており、税収額に影響している。市債は収入全体の 10%未満であり、借金に依存していない健全な財政構造である。2015 年あたりからふるさと納税収入があり、収入の 2～3%が寄付金で得られているのは興味深い。 ・歳出では、高齢化が進むにつれて民生費の比率が増えている。2010 年で 20%程度だったものが今や 30%になっている。少子化により教育費の割合は上がらない。負債から積立金から差し引いた純債務は着々と低下している。 ・将来推計では、2030 年に 75 歳以上が 30%を超え、2045 年には 40%を超える。75 歳以上になると、1 人当たりの医療費・介護費が飛躍的に増える。医療は県単位のため市の努力が反映しづらいが、介護保険料は市町村で個別に決められるため、湖西市民の頑張りでも改善できる。実際、介護保険料は全国平均の 6,225 円に比べ湖西市は 5,000 円となっている。要介護認定率も湖西市は低い。 ・職住近接で若年世代が定住すると、将来的に介護保険をはじめとする高齢者向け行政サービスをどのように提供し、高齢者の生活の質をどう担保するかが課題となる。高齢者の比率が高まっていく中、将来に向けた職住近接を合わせて考える必要がある。
菊地委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの人口減少・高齢化問題に対して、いかに持続可能なものにするか、非常に重要な課題。湖西市を持続可能なものにするためには、その財政を支える若い世代、子育て世代を増やすことが重要。一朝一夕にはできないので、今の政策を今後も継続していくことが大事。 ・限られた財源をいかに上手に配分するかが重要。メリハリをつけてある程度とがった施策も必要になる。 ・税収を生み出す産業をいかに創出していくかが大事。自動車産業はもちろん、社会環境や価値観の変化を踏まえた新しい産業のための環境整備を進める必要がある。湖西市は、自動車産業が基幹産業だが、女性や若者を引き付ける力が弱い。女性目線で

	<p>どのような仕事・産業・まちだったら、湖西市に来て、仕事をして、子どもを生み育ててもらえるか。女性・若者起点のメリハリのある政策が重要となる。</p>
大倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地方交付税が前提である自治体運営はいかがなものか。頑張っている自治体が報われるようにしてほしい。 ・自分が高齢者になる視点で考える必要がある。 ・湖西市には働く場所がある、その魅力がどう伝わるか。共働きが当然であれば、制度や給付金だけではなく、企業内託児所・保育園が全てに配置されるくらいハード面も整備する必要があるのでは。 ・「職」「住」近接のように、「生活」と「福祉」が一緒になると良いと思う。
佐原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少しても、1人当たりの所得が増えれば生活の質が下がることはないのでは。 ・結婚していない同世代も多い。ビジョンがないと、先行きが不透明になる。 ・市民も知るべきことを知るべき。知っておくことで安心できる部分もある。
井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公共物は高度成長期の遺産を食いつぶしているところ。水道は今後維持管理できるように料金体系を見直した。下水道も同じように考えている。人口が少なくなれば、1人当たりの負担が増えるが、人口を増やすしかないのか。 <p>(土居委員) スケールメリットが働かなくなるデメリットはインフラを維持するところでは避けられない。人数を増やすか、集住するか、居住地選択の自由がある中、両立させるのは頭の痛い問題。</p>
野村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ維持の問題は技術が解決すると楽観視している。湖西市は、スマートメーターのように先を考えて、交付税に依存せず、下のレベルに合わせずに頑張ってもらいたい。 ・今の高齢者と、今の現役世代が高齢者になった場合とは異なるのでは。年配者の生き方、介護の在り方についてはドラスティックに考えてほしい。 ・名古屋市のデイサービスが実施しているように、高齢者の方たちが自尊心を持って社会の役に立てるようにする仕組みを自治体で先進的に考えてもらいたい。湖西市には、プレ当事者の人たちが、どういう介護を受けたいのか・受けたくないのか、どうしたら地域の役に立つのか考えられるように、取り組んでもらいたい。 ・女性が参加しやすい自治会を作ってほしい。
土居委員	<ul style="list-style-type: none"> ・不交付団体は不幸という一面はあるが、もらっている自治体は依存してしまい、自分たちで税収を増やす取組をしにくくなっている。貧困のわなに陥っている。 ・湖西市はフロントランナーとして、下のレベルに合わせず、これまで堅く築いてきた地域の地盤を引き継ぎ、財政面でも維持発展ができれば。その裁量も才能も湖西市にはあると思っている。